

中国によるオーストラリア酪農投資の現状

オーストラリアと中国が政治的対立を深めていることで、両国の貿易関係にも顕著な影響が出ている。中国が多くのオーストラリア産品に対して関税を引き上げるなど、貿易上の制裁を課しているためだ。オーストラリア産の酪農産品にはさほど影響は出ていないものの、オーストラリアにとっては近年非常に活発だった中国からの酪農市場への投資を、どこまで規制するべきかという悩ましい判断に迫られている。オーストラリアの酪農市場の中国による投資の実態をレポートする。

はじめに

2008年に、メラミンが混入した大手乳業ブランドの粉ミルクを飲んで子ども5万人以上が腎臓障害などの健康被害を受け、死亡者も出るという「メラミン事件」が中国において発生し、大きな問題となった。

これにより、中国国内の乳業ブランドが信用を失い、オーストラリアやニュージーランド、日本などの海外乳業製品需要が急速に高まった。その結果、年間5万トン以上に上る中国での粉ミルク消費量のうち半分は輸入に頼っている状況だ。

こうした中、品質の高い粉ミルクの安定供給を確保するため、中国からオーストラリアの酪農業や関連事業へ投資する企業が格段に増えた。

また、国内最大級の売り上げを誇る乳幼児向け粉ミルク「カリケア・アプタミル・ゴールド」など豪ブランドの多くは、中国人客が大量に買い込み、スーパーマーケットや薬局で入手が困難になったほどだった。

中国資本による豪州の酪農市場への投資

そこで本稿では、中国資本によるオーストラリア酪農業界へのこれまでの投資について調べてみた。その主要なケースは以下の通りである。

◆中国の食品飲料大手、杭州娃哈哈(ワハ

ハ)集団は、2011年、同社の本拠地である浙江省との姉妹州である西オーストラリア(WA)州の大規模酪農場「レイブンヒル・デーリー」を、2億2000万豪ドル(2011年～2021年の年間の平均為替レートは、1豪ドル=約74～95円で推移)で買収。同地で粉ミルク工場を建設し、現地生産を始めた。

◆中国最大の食品グループ、光明食品集団(ブライトフーズ)が、2013年にWA州の乳製品会社マンデラ・フーズを創業者一族から買収。

◆中国政府系農業商社の中糧集団(COFCO)がコンソーシアム(企業連合)を組み、ビクトリア(VIC)州西部地域の酪農場50カ所を合わせて4億豪ドルで2014年に取得。牛乳生産の5割増産を目指し、加工工場2カ所も新設した。

◆中国の農牧大手である新希望集団(New Hope Group)と食品会社フリーダム・フーズ・グループが、2014年に共同でVIC州に大規模な酪農場を新たに建設。新希望集団は最大5億豪ドル規模のオーストラリア農業投資ファンドを設立、農場設置に資金を投じる。

◆中国政府系の中国機械工業集団(SINOMACH)が、2014年に富豪のジーナ・ラインハート氏と合弁で「ホープ・デーリーズ(Hope Dairies)」を建設し、中国向けの乳幼児用粉ミルク事業に進出。最大5億豪ドルを投

じてクイーンズランド(QLD)州南部で酪農場を運営する計画だった(これは後に頓挫した)。

◆中国農牧大手の新希望集団とオーストラリアの食品会社フリーダム・フーズ、シドニー西部の酪農場レッピングトン・パストラル・カンパニー(LPC)などが参加するコンソーシアム、オーストラリアン・フレッシュ・ミルク・ホールディングス(AFMH)は、2015年に酪農場としてはオーストラリア最大であるニューサウスウェールズ州西部の酪農場モクシー(Moxey)ファームスを買収した。

◆中国浙江省の乳業大手、寧波牛ナイ集団(ナイは女へんに乃、Ningbo Dairy Group)が、2015年にVIC州サウス・ギップスランドの酪農場3カ所を買収。

◆光明食品集団(ブライトフーズ)の子会社、天津光明蒙徳乳業(Tianjin Bright & MengDe Dairy)が、VIC州南部の牧場「ダンクレイグ(Duncraig)」(364ヘクタール)を約250万豪ドルで買収した。

◆中国黒竜江省の牛乳生産大手チャイナ・デーリー・コーポレーション(CDC)が、2016年にオーストラリア証券取引所(ASX)に上場し、約2000万豪ドルを調達。上場後は、オーストラリアの牛乳加工会社と提携し、中国で高付加価値商品を生産できる技術力を獲得。チーズやヨーグルトなどのオーストラリア産乳製品の中国向け輸出も拡大させた。

◆中国資本の乳業会社ブルー・レーク・デーリー・カンパニー(BLD)が、2016年に南オーストラリア(SA)州南東部タンタヌーラ(Tantanoola)に、6500万豪ドルを投じて乳製品加工工場を建設。中国輸出向けに、粉乳や乳幼児向け粉ミルクを生産。

◆中国の乳業大手、蒙牛乳業の乳業子会社、内蒙古富源牧業(Inner Mongolia Fuyuan Farming)が、2016年にVIC州ギップスランド

の乳業バラ(Burra)・フーズを買収。買収価格は3億豪ドル。VIC州コランバラ(Korumburra)にある加工施設を拡張する。

◆中国政府系ファンドの中国投資有限責任公司(CIC)が、2013年にタスマニア(TAS)州の酪農場運営ヴァン・ディーメンズ・ランド(VDL)の買収を計画。これが頓挫し、中国人資本家(ルー・シャーンフン Lu Xianfeng氏)が2016年に買収。VDLは農場25カ所(総面積が計1万9000ヘクタール)を保有し、乳牛1万8000頭を飼育する。(しかしその後、2021年には半分以上の酪農場をメルボルンの資産管理会社プライムバリューに売却した。対象の酪農場は、環境や動物福祉に関するコンプライアンス問題を指摘されていた。)

◆メルボルン拠点の中国系資本、オーストラリア連合が、2019年に、酪農企業オーストラリアン・デーリー・ファームズ(ADF)と合併でVIC州に新たな牛乳加工工場と輸出施設を開設する。中国への販売や有機商品などに注力する。合併比率は、オーストラリア連合が60%、ADFが40%。

◆中国系投資会社の青雲創投が出資するWA州拠点のWAデーリー・アンド・エナジー(WADE)が、2020年に、総額12億豪ドルを投じて同州ミッドウエスト地区に粉ミルク製造施設を建設する。WADEは、乳牛2万4000頭が自由に歩き回れる大規模な牛舎を建設し、生産した牛乳を使って年間3万トンの乳幼児用粉ミルクを生産する。

◆中国の乳業大手蒙牛乳業が、2019年9月にTAS州のオーガニック離乳食・乳幼児用粉ミルク製造ベラミーズを15億豪ドルで買収。蒙牛乳業はベラミーズの全株式を取得する。2016年頃から、中国当局による海外の輸入乳製品への規制が強化され、輸出に必要な免許を停止した。これによりベラミーズが大打撃

を被っていた。またオーストラリアの他ブランドにも同様の規制を課していた。中国は明確な理由を明らかにしなかった。

◆中国の乳業大手である伊利実業集団と内蒙古富源牧業が、オーストラリア最大の乳業組合マレー・ゴールバーン(MG)の買収を計画。これは豪連邦政府が認めず、頓挫。

◆中国の粉ミルク大手の貝因美婴童食品(貝因美、Beingmate)とオーガニック粉ミルク・離乳食製造のバブス・オーストラリアが提携。バブスの粉ミルクや離乳食は、既に中国国内で約 500 軒の小売店やオンラインで販売する。

◆中国の乳業大手蒙牛乳業は、日系キリンホールディングスのオセアニア子会社ライオン(Lion)の飲料事業部門であるライオン・デーリー・アンド・ドリンクス(LDD)を、2019 年 11 月に約 6 億豪ドルで買収すると発表。LDD はオーストラリア国内で 11 カ所の加工場を展開、280 の酪農生産者から、年間 8 億 2500 万リットルの牛乳を調達していた。ところが、2020 年になると、大麦に対する大幅な関税引き上げに始まり、直近ではワインへのダンピング調査を行うという一連の中国政府の揺さぶりにオーストラリア政府が嫌気を示し、外資審議委員会(FIRB)が買収を却下。結局、地元の乳業大手ベガ・チーズが買収することになった。価格は約 5 億 6000 万豪ドル。

豪中 FTA の役割

こうした中国からの莫大な投資の背景は、先のメラミン事件だけではない。2014 年にオーストラリアと中国が締結した自由貿易協定(FTA)も大きな役割を果たしている。

豪中 FTA では、オーストラリア産乳製品全てに対し、輸入関税が 11 年かけて撤廃される。既に乳児用粉ミルクにかかる輸入関税 15%は 4 年かけて撤廃された。粉乳にかかる関税

10%も 11 年かけて撤廃される。また、チーズ、バター、ヨーグルト、液乳にかかる関税は 9 年かけて、アイスクリーム、ラクトース、カゼイン、乳アルブミンの関税は 4 年かけてそれぞれ撤廃された。

中国資本による莫大な投資の数々は、豪中 FTA の先を見越していたものと言える。

日本を抜いて中国向けが最大に

オーストラリアの乳製品加工業者にとって、長期にわたって最大の輸出先だったのは日本だったが、短期間の間に、中国向け輸出に比重を移した形になった。日本向け輸出は近年、大きな伸びを示していないのに対し、中国向け輸出は増加傾向にある。中国での乳製品消費は 1 人当たり年間 30 リットル(牛乳換算)で、先進国の 10 分の 1 にとどまると言われることから、どこまで需要が伸びるかも注目される。

オーストラリアで乳製品生産の約 9 割を担うのがVIC州である。同州の乳製品の輸出額は 2019/20 年度に前年比 3%増の 21 億豪ドルを記録し、新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)による市場の混乱にもかかわらず、堅調を維持している。最も輸出額が大きかったのは牛乳とクリーム類で、VIC州の乳製品輸出の 48%を占めた。チーズとホエイ(乳清)は全体の 41%に上った。VIC州にとって乳製品の最大の輸出市場は今や中国となり、輸出額全体の 27%を占めている。2 位は日本の 21%だった。

中国との対立でも根強い楽観論

しかし一方で、近年の豪中間の政治的な対立の過熱に伴い、オーストラリアの農業界では、乳製品が貿易上の制裁の対象となってもおかしくないとの警戒感もあるのは確かだ。そうし

た中、貿易リスクを分散するために輸出相手国の多様化が進められており、酪農業界では次の市場としてインドを積極的に開拓する動きが着々と進められている。

業界団体デーリー・オーストラリア(DA)は、760万豪ドルの資金で、13億人の人口を擁するインドとの関係強化プランの策定を始めた。インドの交渉相手とのエンゲージメントや、インド市場に通用する乳製品は何か調査を行うという。

しかし、オーストラリアの酪農業界には、根強い楽観論があるのも確かだ。

農業系金融機関ラボバンクの酪農アナリストは、中国における2020年9月単月の牛乳輸入量が初めて10万トンを超えたとレポート。「中国の輸入量は2008年には8000トンしかなかったため、いかに中国の需要が急上昇したか」と強調し、今後10年間は高い需要が持続すると予想している。

今年9月に環太平洋パートナーシップ協定(TPP)に加盟申請した中国は、不当という印象を与えかねないオーストラリアへの貿易上の制裁を、これ以上続けるのは得策ではないと判断するとみられる。加盟が認められるには、オーストラリアを含めた全加盟国の承認が必要だからだ。

中国は今後、政治面ではオーストラリアへの攻撃的な態度は続けるものの、貿易面では落としどころを模索する方向に向かうとみられる。また、食料難が長期的に続く予想される中国の国内事情を考慮すると、基礎的な食品・飲料である乳製品を、対オーストラリアの貿易制裁の対象商品に加えることはないのではと見る向きが強い。

参考資料

1) オセアニア食品農業誌ウェルス

<https://nna-au.com/>

2) ラボバンク

<https://www.rabobank.com.au/>

3) デーリー・オーストラリア

<https://www.dairyaustralia.com.au>

4) 豪農業省

<https://www.agriculture.gov.au/>

5) ルーラルバンク

<https://www.ruralbank.com.au/>

6) ファームオンライン

<https://www.farmonline.com.au/dairy/>

7) デーリーニュース

<https://www.dairynewsaustralia.com.au/>

8) ウィークリータイムズ

<https://www.weeklytimesnow.com.au/>

9) オーストラリアン・ファイナンシャル・レビュー
<https://www.afr.com>

10) デイリーテレグラフ

<https://www.dailytelegraph.com.au/>

11) オーストラリアン

<https://www.theaustralian.com.au>

12) ABC <https://www.abc.net.au/>

13) サウスチャイナモーニングポスト

<https://www.scmp.com/>

(資料閲覧期間:2021年9月1日~27日)

(取材執筆担当:オーストラリア在住 西原哲也)